

超低バックグラウンド 原子核・素粒子実験懇談会 イントロダクション

Y. Suzuki

Kamioka Observatory, ICRR, U. of Tokyo and
Kamioka Satellite, Kavli IPMU, U. of Tokyo

April 23, 2013

@Toyama

- 超低バックグラウンド原子核・素粒子実験
 - 2重ベータ崩壊(DB)、ダークマターの直接観測(DM)、低エネルギーニュートリノ観測(NU)
- 大規模化 (DB・DM: 数100kgからトンスケールに、Nu: kt~Mt, Short cutもあるが、、)
 - 一研究室で難しいレベル? 東北大は例外?
 - 人、物、金: 不足
 - 経費: 大型研究 → 学術会議のロードマップ
 - 人: 雇用を巡る環境の変化
- 共通の‘超’低BG技術: 技術協力が可能
- 国際競争に勝つには
 - 競争から協調へ

共通の目的意識？

国際競争に勝って、成果を上げるためには、これらの分野で研究を進める国内研究者が、

- 1) 国際競争の中での各プロジェクト(R&Dを含む)の現状と将来の展望、必要なリソースの理解
- 2) 関連する実験技術に対する情報共有
- 3) 分野全体での効率的かつ競争力のあるロードマップの構築
- 4) 予算要求を含むプロジェクト実現への共同歩調
- 5) 長期的な競争力を維持するための多様性を担保したR&Dの積極的推進と支援
- 6) 'コミュニティー'の拡大を含む人材交流の活性化と人材育成
- 7) 国際共同実験の進め方

など、を共通の認識として、議論・推進して行く必要があるのではないか。

→ ある種のコンソーシアム形成？

Speakerの方へ

- 上記の主旨から、自分たちの推進している実験(R&D)の位置づけ、今後の展開(人、金)、
- どのように本実験にもってゆくか、についても、話の中で、ぜひ触れてください。
- 宿題の年表(必要な人とお金)をぜひ示してください。